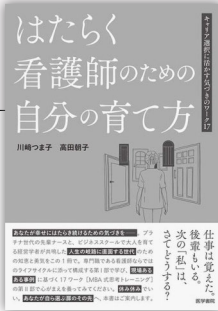


お役に立てるお薦めの

8冊

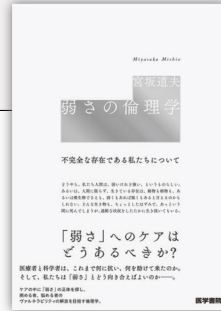


はたらく看護師のための 自分の育て方 キャリア選択に活かす気づきのワーク 17

川崎つま子, 高田朝子 著

看護マネジメントのプロとマネジメント学を研究する教授がタッグを組み、人生の岐路に直面する世代を応援するべく知恵と勇気を伝授する。第Ⅰ部で、意思決定のときに落ちていく課題に向き合える心がまえを学び、第Ⅱ部で、現場でよくある事例についてMBA 式思考トレーニングのワークで思考を鍛える書。

定価：2200 円(本体 2000 円 + 税 10%) / 医学書院



弱さの倫理学 不完全な存在である私たちについて

宮坂道夫 著

あらゆる弱さを抱えながら人は生きている。その弱さはどこからくるのか、弱さとう向き合ってきたのか。自らの弱さに対応するために、人はさまざまな技術を生み出したが、その恩恵に与れない存在へ配慮をしてこなかったため、多くの倫理的問題が露呈した。こうした問題意識をふまえ、弱さのもつ可能性を探究する。

定価：2420 円(本体 2200 円 + 税 10%) / 医学書院



世界一役に立たない育児書

かねもと 著

自らも子育て中の漫画家が、懸命に子育てしている保護者仲間にエールを送る。そもそも子育てに正解なんてない。親も子も、育て方も育ち方もみんな違う。食べるか食べないか、よく寝るか寝ないか、イヤイヤ期対策もその子次第。急いで育児を仕損じる、デキる親は頼る親など、新ことわざにも救われる 1 冊。

定価：1320 円(本体 1200 円 + 税 10%) / 白泉社

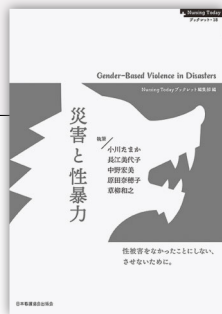


性暴力サバイバーが出産するとき 子どもの頃に性的虐待を受けた女性が 出産するときに起こることの理解と癒し

フィリス・クラウド, ベニー・シムキン 著 / 白井千晶 監訳
性暴力サバイバーの妊娠出産ケア・プロジェクトチーム 訳

子どもの頃に性的虐待を受け、性的トラウマのある女性は出産前後に PTSD になりやすいという。本書は、性的虐待サバイバーの妊娠・出産期をサポートする医療者や支援者に、事例を示して問題の深い理解を促し、関わり方やケアの考え方を指南する。各国のワークショップや研修、支援者養成にも活用されるテキスト。

定価：5500 円(本体 5000 円 + 税 10%) / ともあ

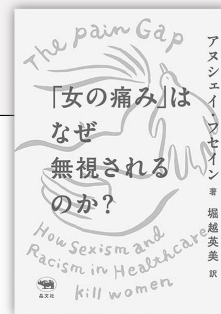


災害と性暴力

性被害をなかったことにしない、
させないために。

小川たまか、長江美代子、中野宏美、
原田奈穂子、草柳和之 著

過去の大震災時にも性暴力被害はあった。その実態を明らかにし、メディアの伝え方、性暴力対応看護師の支援、撲滅啓発活動が続ける NPO の視点、被害者支援・加害者更生プログラムを実践するカウンセラーの指摘などで、災害と性暴力を多面的に捉える。同じことを繰り返さないために、私たちは何をすべきなのか。
定価：990 円(本体 900 円+税 10%) / 日本看護協会出版会



「女の痛み」はなぜ無視されるのか？

アヌシェイ・フセイン 著
堀越英美 訳

「医療における性差別と人種差別によって女性が健康を損ねている」と、アメリカで現在進行形で起きている問題を綿密な調査で明らかにしたノンフィクション。偏見、差別により、女性の痛み、特に有色人種の女性の訴えがまともに受け止められない事実を、あらゆるデータ・記事・証言をもとに告発する。
定価：2200 円(本体 2000 円+税 10%) / 晶文社



狙われた身体

病いと妖怪とジェンダー

安井真奈美 著

疫病や痛みは、近世から近代にかけてどのように可視化され、対処されてきたのか。「狙われた身体」とされた女性はどう表象されたのか。特に胎児と妊婦の身体はどう描かれてきたのか。妖怪や怪異現象の伝承などから浮かび上がる過去の人々の身体観を、民俗学とジェンダー・女性学の見地から読み解く身体論。
定価：3080 円(本体 2800 円+税 10%) / 平凡社



病気と治療の文化人類学

波平恵美子 著

「医療人類学」を提唱した 38 年前の画期的著作を文庫化。人は、どれほど科学が発達しても避けられない病気にさまざまな意味づけを行ってきた。シャーマニズムと病気、明治期のコレラ流行時の社会的混乱、ユタの治療の実態など、多様な事例とともに、病気はどのような社会的・文化的意味をもつのかを論考する。
定価：1320 円(本体 1200 円+税 10%) / 筑摩書房